

【令和7年度 授業改善推進プラン】

※令和7年度に新たに加筆修正した部分は赤字にしています。

板橋区立板橋第二小学校

【国語】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な文章は読み取ることはできるが、複雑な文や主語が省略されている文等を正しく読み取ることが不十分である。 ・自分の考えをもつことはできるが、言葉で表現することや相手に伝えることが苦手な児童がいる。 ・情報と情報を関係付けたり、図やグラフから読み取れることを言葉結び付けて考える力が育っていない。 ・発表する際に声の大きさ等話し方の工夫ができていない児童がいる。 ・静かに話を聞くことはできるが、話の大事な部分や中心を押さえることができない。 ・語彙力が豊かでないため、表現に広がりがない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の考えを自分の意見や考えと比較させる場が少ない。 ・書く単元で、個に応じた指導に課題がある。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、ペアや少人数グループや学級全体に伝える時間を多く設定する。 ・自分の考えや調べて分かったことを、相手を意識して発表する活動を増やす。 ・調べる内容、方法、まとめ方等を選択、決定、調整をし、児童自身が学習を進めていくことができるような単元計画を立てる。 ・図やグラフなどに表すよさを何かを押さえた上で、因果関係や事象を読み取ったり、自分の言葉で内容を説明する活動や時間を設定する。 ・分からない言葉をすぐに辞書などで調べるよう指導する。 ・スタディアップタイムでフォーム問題やプリントに取り組み、視写や校閲・読み取り問題などに取り組む。 ・授業中に問い返しをし、主語と述語の関係や指示語の内容を確認する活動を増やす。

【社会】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から情報を正確に読み取る力が不十分である。 ・調べたことをまとめることはできるが、情報を比較したり、自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童が多い。 ・日常生活と社会的な事象を結び付けて考えることが不十分である。 ・電子黒板のデジタル教科書を用いて、図と本文を紐付けたりする活動に、主体的に取り組んでいる。 ・話し合い活動を多く取り入れることで、学級会などとのカリキュラムマネジメントを意識している。 ・調べた情報を自分の言葉でまとめることが苦手な児童が多い。 ・話し合いで情報共有では、目的意識をもって活動に取り組んでいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて考えられるような問いかけが少ない。 ・教科書の文言を活用した定義のおさえが不十分である。 ・興味・関心や理解の個人差に対応することに苦慮している。 ・1人1台のICT機器をうまく活用できていない。 ・日常生活に紐付けた導入を豊富にする。

<p>■授業革新推進に 向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて読み取れるように問いかけを増やす。 ・根拠を基に自分の意見を発表できるよう、キーワードや定義を板書に明記する。 ・まとめをする際は、めあてに立ち返るように促す。 ・デジタル教科書を活用し、資料と文章を対応できるように指導する。 ・児童のタブレットを活用することでより主体的で対話的で深い学びを促す。 ・色線をつかって教科書から読み取れるものに線を引くなどの声掛けを行う。 ・単元をねらいを明確にし、見通しをもてせて計画・実行・振り返りを行う。教科書・資料・地図帳・タブレットなど学習教材や人の選択だけでなく、学習する内容も自身に合わせた選択・決定・調整させる。
--------------------------------	--

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての確認、教科書の文を読み解くことで、課題を解決する力が身に付いてきた。 ・問題を式や図、表などを使って、考えを分かりやすく整理する力に課題がある。 ・文章問題や応用問題になると、読解力に差があるため正答に個人差がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に、個別の学習支援が十分にできていない。 ・ペア学習や集団解決など、友達と考えを交流する時間が少ない。
<p>■授業革新推進に 向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・inputを一斉で指導した後は、個別最適化学習を目指し、学び方を選びながら学習する環境づくりを行う。 ・書くことを意識的に指導する。自分の考えを書いたり、友達に伝えたりすることで、考えをより一層明確にし、修正できるようにする。 ・根拠となる資料や式と自分の考えをノートに書く学習をさせる。 ・友達と意見を交流できる時間を設け、他者の考えを参照できるようにする。 ・読み解く力の分類に基づいて、学び合いを意識させたり、友達の意見と比べて差異を見つけたりすることで、児童が主体となった話し合いを活発にできるようにする。 ・すららドリル、またはプリント学習を行い児童自身の習熟度にあった問題を日常的に補習学習として活用する。 ・放課後教室、長期休業中の補習教室で、習熟度の低い児童への学習を補う。

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育への意識が高い。 ・既習事項から根拠をもって予想できる力が育まれている。 ・ノートに観察や実験をした結果や考察をまとめる力が不十分である。 ・スタディアップタイムにより資料と文章を結び付けが上手くなった。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・事象と事象を関係づけて結論付けることに課題がある。 ・事象や物体を比較し、分類する力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問い返しが一問一答になってしまっている。 ・教科書の文言を活用した定義のおさえがあまり。 ・自分で考えた予想と結論を結び付ける時間を確保できていない。 ・ICT機器をうまく活用できていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を繋げるような問いかけを増やす。(一問繋答) ・根拠を基に自分の意見を発表できるようにキーワードや定義を板書する。また、まとめをする際に自分の言葉でまとめるよう促す。 ・実験の手順について、写真と文を対応できるよう問いかけを増やすとともに、デジタル教科書を活用する。 ・実験を、タブレットを用いて記録し、いつでも見返すことができるようにする。 ・実験を教師側が用意するのではなく、児童が計画的に実験の計画を立てることで選択、決定、調整できるようにしていく。

【生活】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープにいる生き物に興味をもち、ながめたり、さわったりしている。 ・調べたことや感じたことを絵や文で表現する際の、表現の仕方や意欲に偏りがある。 ・校庭に生息している生き物について、自分たちで世話の方法を調べ、世話をしている。 ・観察カードに描くもの、学校案内の場所、まち探検の行き先を積極的に選択している。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことや感じたことなどを主語、述語に気を付けながら文を書く指導が不十分である。 ・表現したものを自分の言葉でわかりやすく友達に伝える学習が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・主語や述語を意識して文を書くように指導を行う。 ・調べ学習でわからない言葉がある時は辞書やタブレットなどで調べる活動を行う。 ・活動前の話し合い(既有体験等を基に類推したり、推測したりする)や、活動後の振り返り、伝え合い、表現活動などの言語活動を充実させる。 ・季節ごとの植物や生き物を調べたり、全体で共有したりする時間を設ける。 ・観察カードに描くもの、学校案内の場所、まち探検の行き先を自分たちで選択、決定、調整をする。

【音楽】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の演奏やタブレット端末を用いた活動に積極的に取り組んでいる。 ・感じ取ったことを自分のイメージや感情、経験と関連させることが難しい。 ・高学年になると、歌声に自信が持てない子が多くなったり、発言する児童が限られてしまったりしている。 ・「どのように表現したいか」「どの楽器やリズムを使うか」など、自分なりの表現を《選択》する場面が少なく、教師の指示や一斉の活動傾向がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、個に応じた指導が不十分である。 ・個に応じた進度別の課題を設定し、目標を持って取り組めるようにする。 ・自分の表現や演奏の良さ・課題を認識し、次の活動に《調整》していくふりかえりの機会や手立てが不十分である。 ・「学習の見通しをもつ」「目標を自分で意識する」など、自己調整型学習の基盤となるメタ認知的な指導が系統的に行われていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏やリズム活動の場を意図的につくることで、一人一人が思いやめあてをもてるようにする。 ・タブレットで教師の模範演奏を録画し、個人のペースで練習できるようにする。自分の演奏を録音させ、客観的に聴くことができるようにする。 ・旋律の特徴や音の高低・リズムなどの「読み解く力」を育てるために、図やスコア(楽譜)と音源を対応させて視覚的に整理し、ICTを用いて視点を明確に示す。

【図画工作】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・つくること、かくことに意欲的な児童が多い。 ・高学年になるにつれ、発表活動に対し消極的な児童が増える傾向にある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発言・発表する児童が限られている。 ・抽象的な表現のよさ・面白さを深く味わい、自分の作品に生かせる児童が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くに児童が発表する機会を設ける。 ・鑑賞活動を多く取り入れ、芸術家の作品等を多く紹介する。 ・ICT機器を積極的に活用し、視覚的に情報を伝達することで作業の見通しをもちやすくさせる。教師が作成した資料を児童が必要なときに参照できるようにする。 ・教科書の文章と図を対応させ、読み解く力の育成を意識した授業展開をする。

【家庭】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫、調理といった学習に対する関心、意欲が高い。 ・日常生活における経験に個人差が見られる。 ・教科書の資料から正しく読み取り、理解する力が不十分である。 ・身に付けた技能を実生活で生かしていく力が不十分である。 (→ 経験が少なく、個人差が大きい。)
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、個に応じた指導が不十分である。 ・実習の楽しさが先行してしまい、学習のねらいや身に付ける技能や理解が十分ではない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを家庭での実践に繋げることが難しい。 ・教材教具の提示方法を工夫できていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真と文章を対応できるよう問いかけを増やす。 ・振り返りの視点を明確にし、実生活に生かせるように促す。 ・児童が単元の目的や学習内容を把握し、めあてや課題等を選択して学習を進めていくことができるように単元計画を立てる。 ・ICT機器の写真や動画を児童自らが活用できるようにする。活用し、個に応じた助言ができるよう授業展開を工夫する。 ・自己調整学習 ・家庭の協力を得ながら、学んだことを家庭生活で活かしていこうとする意欲を高める。

【体育】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が楽しんで取り組んでいるが、苦手意識をもち授業に意欲的に取り組めていない児童がいる。 ・技能面では個人差が目立つ。 ・思考して活動を行うことが苦手な子が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動の時間が十分確保できていない。 ・運動についての効果的な場の設定、助言や言葉かけが十分に行えていない。 ・体力向上への取り組みができていない。 ・個別最適な課題への取り組みができていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も意欲がもてるように、ルールを工夫してゲームをする。 ・毎時間めあてに対して振り返りを行い、次回の授業に個人の課題をもって取り組めるようにする。 ・スモールステップの場を作り、どの子も達成感を味わえるようにする。 ・友達同士で教え合うことができるようにペア・グループ学習をする。 ・児童が参考にできるような資料を用意する。 ・体力テストの結果から、足りない部分を補えるよう運動の習慣化を目指し、体育館や校庭など、体力向上に向けて場の工夫を行う。 ・課題解決するために、器械運動領域を中心にタブレット端末を活用する。 ・校内で体育授業の指導法について研修を行う。 ・体育専科による TT 授業を行い、指導法の意見交換を行う。

【外国語活動】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつやアクティビティには意欲的に取り組んでいる。 ・理解度や定着度の個人差が大きい。 ・絵や形、数と、それに対応する英語をあわせて覚えられている児童が少ない。 ・活動的な学習以外の時間にあまり集中できない児童がいる。 ・youtubeなどの動画で体を動かしながら外国語に触れる活動は、非常に意欲的に活動する。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとのねらいを深く理解し授業を行えていない。 ・児童の理解度や定着度に応じた指導ができていない。 ・活動的な学習以外の時間にも集中できるよう促す。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT から指導方法についての助言を受け指導に活かす。 ・身に付けるべき授業や文型の定着度をみとりながら授業を行う。 ・チャンツや歌、踊りなどを適宜取り入れる。 ・授業で目標とされる文型以外の文型にもふれさせる。 ・単語だけで発言せず、主語と述語も加えて言うような場面を設定す

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵や数などに対応させて発音練習を繰り返す時間を多く設ける。 ・発音練習や文法の解説が、後のアクティビティにつながることを伝えながら授業を進める。 ・本時で達成してほしいことを伝えるなど目的意識をもたせる。
--	---

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付けたり、課題解決のために情報を整理したり、分析したりして考える力と自ら工夫して表現したり、発信したりする力が不十分である。 ・インターネットを活用して情報収集し、児童が調べたことなのか、自分の考えなのかを意識して表現できていない。 ・インターネットの情報を頼りすぎる傾向がある。学校図書館の本を活用して調べる学習にはなっていない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を児童が自ら見付けるための課題発見の導入を教師が意図的に計画し、児童が自ら課題を見付け、見通しをもって取り組めるような学習計画を立てる必要がある。また、授業における教師の関わりなどの工夫、改善の必要もある。 ・次年度への学びの意欲、探求的な学習ができるよう学習成果をデータやドライブ上だけでなく、模造紙や画用紙などの方法も活用させたい。 ・各学年の学習課題がSDGsの実現にどのように関連するかを明らかにし、意識を高めて取り組む必要がある。 ・一人一台端末だけでなく、個別最適な学びや自由進度学習を意識し、学習形態に合わせてまとめさせる指導が不十分である。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・単元づくりにおいて探究的な活動の流れ(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を重視し、各段階の活動の目的や必然性を意識した授業を行う。 ・まとめ方や発表については、スライドだけでなく、模造紙や紙芝居、新聞形式など様々な方法を提示し、まとめ方を工夫できるように指導をする。 ・体験的活動を取り入れたり、地域の人材を活用したり、共通体験の場を設定したりして児童の探究意欲を高める。 ・児童自ら課題解決に向かえるようにするため、活動の方向性を決める時間を設ける。 ・情報を分析したり、意思決定が必要となったりした際、話し合いの場を設定する。 ・情報収集に必要な図書資料を学校図書館や東板橋図書館等に依頼し用意する。 ・目的や相手意識を明確化し、まとめや表現活動よりも資料の整理や分析、発表に対する意見の交流に重点を置いて指導を行う。 ・タブレットパソコンのジャムボードやオクリンクを用いてペア学習やグループ学習などで意見交流を行わせる。 ・3～6年で系統性をもってSDGsについて4年間を通して学べる単元を設定する。

【道徳】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを素直に発表することができる児童が多い。 ・発表することが苦手な児童もいる。 ・道徳ノートに自分の思いを書き、表現できる児童が増えてきた。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国語のような、登場人物の心情を読み解く学習になっている。 ・教師と児童の一問一答やりとりで授業をすすめてしまうことがある。 ・ペアで話し合うこと、全体で伝え合う場が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教材について、わかりにくい言葉や文の意味は、言葉の意味を確認しながら読みすすめる。 ・デジタル教科書を活用しながら、教材提示を視覚的に行い、教材の世界に浸るようにさせる。 ・「自分だったらどうするか」「これからの自分はどのように行動するとよいのか」等、自分の行動を考える発問をする。 ・ペア活動、集団での話し合い活動を多く取り入れる。 ・全員が意見を共有する場をできるだけ増やす(ペア・グループ意見交流)。児童からの正直な本音や心の葛藤を引き出し、様々な意見が出ることを受け入れる。 ・考えの変容や比較を視覚的に分かりやすくするために、文章表現だけでなく、感情メーターや思考ツールを効果的に活用する。 ・道徳ノートのチェックを行い、児童の思いを教師が受け止める。

すべての教科で実践すること

- ・授業で学習まとめをする時、児童自身が授業で学んだ事を文にまとめる時間を設け、自分の考えを記述する。(キーワード、文字数の制限など)